

「この人 24」

石川節子 57 歳 東京都

八木 滑稽俳句協会をどこで知りましたか。

石川 「かならず俳人になれる講座」(ナレッジサーブの通信講座) の八木先生の生徒ですよ。

八木 失礼しました。滑稽俳句に興味というか関心をお持ちになったいきさつは？

石川 江戸川区の市民講座で俳句を学びました。ところが、「子規の写生が基本」の作り方に疑問が生じたのです。生き方や人生を語れる句をなぜ作ろうとしないのかと。ところが単なる写生句ではない作品に出会いました。例えば、鈴木真砂女さんの句。こんな生活句があるんだと。そんなときに滑稽俳句協会の存在を知ったのです。はたと膝を打ちましたね。俳句はこうでなくっちゃと。学生の頃から「写生句は難しくてつまらない」という意識があったように思います。中学時代、職員室で国語の先生に「流れ行く大根の葉の早さかな」のどこが面白いのかと問いただしたことや、高校の授業で俳句を提出したら、「これは全部川柳ですね」と先生に苦笑されたことなどが思い出されます。

八木 入会申込書に「これこそ俳句だと共感」と書いてくださっていて、こういう方に滑稽俳句を盛り上げていただきたいと思いましたよ。

< 代表句 >

五月晴無帽なること悔やみたり

イヌッコロ地面の熱を一身に

羅に替えろと犬の口呼吸

パソコンも熱中症なり5兆桁

百歳の現住所は今夏木立